

2006年10月期 中間業績について

1. 業績報告

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、好調な企業収益を背景に、設備投資、個人消費ともに伸長し、回復基調で推移しました。

このような状況のもと、当社グループは生産効率の向上を図るなど原価低減に積極的に取り組むとともに、企業価値を向上させるべく、製品の市場競争力の強化に注力してまいりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の連結売上高は7,603百万円（前年同期比1.6%増）となりました。また利益面では、経常利益878百万円（前年同期比14.0%増）、中間純利益552百万円（前年同期比11.0%増）となりました。

事業のセグメント別の業績は、次のとおりであります。

- ① 猟銃事業
主力の米国市場は原油高の影響による買い控えに加え、当社新製品投入の端境期が重なり受注が減少し、販売数量はショットガン、ライフルともに前年を下回り、前年同期比16.6%の減少となりました。以上の結果、売上高は3,517百万円（前年同期比9.5%減）、営業利益は315百万円（前年同期比24.1%減）となりました。
- ② 工作機械事業
好調な自動車・金型関連業界からの受注が堅調に推移しており、機械部門・ツール部門・加工部門の主要三部門は売上・利益ともに前年同期を上回りました。その結果、売上高は1,889百万円（前年同期比27.7%増）、営業利益は471百万円（前年同期比96.2%増）となりました。なお、売上高につきましては、セグメント間の内部売上高3百万円を含んでおります。
- ③ 自動車関連事業
自動車業界は引き続き順調に推移しております。主力の純木製ステアリングハンドルの販売数量は、好調であった前年同期の水準を維持し、ウッド調ステアリングハンドルとシフトノブも特需的な期間限定車種への販売と搭載車種への装着率が増加したこと等により、前年同期を上回る業績となりました。その結果、売上高は2,186百万円（前年同期比4.5%増）、営業利益は13百万円（前年同期比2.4%減）となりました。
- ④ その他事業
その他事業につきましては、売上高は13百万円、営業損失は8百万円となりました。

2. 通期の見通し

下半期の見通しにつきましては、原油価格の高騰などの懸念材料があるものの、国内景気は底堅く回復基調で推移するものと思われれます。

このような環境のもと、当社はグループ企業の純粋持株会社として、グループ企業全体の成長性と収益性を見極め、各々の事業分野で市場動向を踏まえた事業戦略を立案し、機動的な対応により競争力を強化し、企業価値の向上に努めてまいります。

通期の業績予想につきましては、売上高15,300百万円（前期比0.6%減）、経常利益1,570百万円（前期比4.3%減）、当期純利益970百万円（前期比5.6%減）を見込んでおります。

なお、工作機械事業におきまして、ガンドリルツール及びラッピングマシン用定盤等の消耗品の生産能力を増強するため、定盤生産ラインの新工場を平成18年5月に取得し、またガンドリルツール生産工場を増改築することを決定いたしました。